二〇一六年三月四日

出不精の夫を連れ出す梅日和　ぽんこ
鰈干しつつ後ろ手に蝿叩　こすもす
手庇に仰ぐ蒼天揚雲雀　宏虎
若布刈舟散らばる沖を行く巨船　なつき

二〇一六年三月三日

ハイヒール脱ぎ捨て土手の青き踏む　さつき
存問の一筆添へて若布が届く　満天
花桃の土手に広げて手まりずし　智恵子
春塵や仁王の太きあばら骨　ぽんこ

二〇一六年三月二日

神木にハグする女子や春うらら　よし女
蒼天に溶け入りさうな辛夷の芽　ひかり
風を得て上機嫌なる武者のぼり　智恵子

二〇一六年三月一日

春愁や診察待ちの椅子足らず　三刀
水うらら幼の投げし石礫　よう子
川面はや一閃二閃初燕　宏虎

二〇一六年二月二九日

春日影をどる手水の水底に　ひかり
水音の奏づがごとき花菜径　よし女
ありがたや畳廊下の春火鉢　よう子
浜風に乗りていかなご炊くにほひ　宏虎

二〇一六年二月二八日

大鳥居潜る人波四温晴れ　満天
踏青や百円野菜買ひもして　有香

二〇一六年二月二七日

遣水に撫でられ揺るる菖蒲の芽　菜々
焼芋の笛がわたしを呼んでゐる　よし女
探梅といふは口実おしゃべり行　よう子
春風や焼きたてパンを売る匂ひ　満天
翠黛のはんなりとして春きざす　明日香
足弱の杖ともなりて梅探る　こすもす

毎日句会みのる選・二〇一六年三月七日